

温州ミカンの日焼け果軽減対策について

【研究のポイント】

温暖化による夏期の高温や強日射のため、温州ミカンの日焼け果が増加しています。
 そこで果樹グループでは、その対策として日焼け軽減資材（炭酸カルシウム微粉末資材）をミカンの樹に散布して効果を検証しました。
 ※炭酸カルシウム：食品添加物としても使用されている資材で、自然界ではサンゴ、貝殻、卵殻などの主成分として存在（化学式：CaCO₃）



【果実の日焼け障害】

【研究の成果】

【これまでの成果】

平成27年は、日焼け果の発生が少ない年でありカルシウム資材の効果は明確ではありませんでした。平成28年は、猛暑日が続いたため日焼け果の発生が極めて多く、無散布では果実の半数近くで日焼けの障害が確認されましたが、資材散布を行うと日焼けは9%程度減少しました。
 日焼け防止効果が確認されたので、出荷時期にカルシウム資材の付着が残らなくなる散布時期や希釈倍率（濃度）等について引き続き検討を進めます。

【試験の方法】

- ・散布資材：炭酸カルシウム微粉末資材（類白色水和性粉末 45μm以下）
- ・散布量感：樹1本につき6～7リットルを樹冠全面散布（重量ベース100倍希釈）
- ・散布時期：7月下旬

【試験の結果】

・カルシウム資材を散布した樹・果実と無散布の日焼け発生と品質・収量の比較

① カルシウム資材を散布した場合



	平成28年度	平成27年度
日焼け発生率 (%)	36.3	19.6
Brix (甘さ)	9.3	9.5
クエン酸 (酸っぱさ)	0.90	0.77
収量 (kg/樹)	46.8	68.3

② カルシウム資材を散布しなかった場合



	平成28年度	平成27年度
日焼け発生率 (%)	45.4	23.3
Brix (甘さ)	10.3	9.1
クエン酸 (酸っぱさ)	1.02	0.89
収量 (kg/樹)	46.5	72.0

【生産現場の声】



JAおaitた杵築柑橘選果場
小春総括

日焼け果が多発すると農家の収益が低下します。現場でも問題となっており対応を模索中です。簡便で効果的な対策の確立を期待しています。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム
 TEL：0978-72-0407
 住所：国東市国東町小原4402